平成 26 年２月 17 日

世田谷区立船橋希望中学校
校長　徳　永　啓　介　様

世田谷区立船橋希望中学校
学校関係者評価委員会
委員長　君　島　光　司

平成２５年度学校関係者評価結果報告書

学校関係者評価委員会において、「学校評価システム」に基づき、関係者アンケート調査の結果の分析や自己評価の結果及び授業等の観察などをもとに総合的な評価を行い、報告書を作成いたしました。その報告書の概要は、以下のとおりです。

〔関係者アンケート調査結果の分析の観点と評価について〕

アンケート調査結果の分析については、全学年の結果とともに学年別の結果を以下の観点で評価した。

１　「とても思う」「思う」の割合の合計を「肯定的評価」と捉え、「評価が高い項目」（生徒は 60％以上、保護者は 50％以上の項目）と「特に評価が高い項目」（生徒は 80％以上、保護者・地域は 70％以上の項目と、「とても思う」の割合が 30％以上の項目）に分けた。

２　「あまり思わない」「思わない」の割合の合計を「否定的評価」と捉え、「課題がある項目」（生徒・保護者・地域ともに 25％を超える項目）と「特に課題がある項目」（40％を超える項目や「思わない」の割合が 20％程度の項目）に分けた。

３　「分からない」の割合については、25％を超える項目に注目し、その割合が多い原因を検討するため、教職員の意見や保護者アンケート「記述式のまとめ」などで分析した。

４　船橋希望中学校の前年度アンケート調査結果と比較して検討した。

統合２年目であるので、船橋希望中学校の目標やそれを達成するための取り組みを適切に評価するため、学年毎の生徒と保護者の評価については、昨年度のデータの比較・検討とともに、２年生の場合は昨年度の１年生のデータと、３年生の場合は昨年度の２年生のデータと、学年進行を考慮した比較検討を行った。

なお、この報告書の括弧内の数値は、昨年度の数値である。

５　保護者アンケートの「記述式のまとめ」の内容については、1 人の意見を重視しすぎて、全体の状況を見誤らないように配慮した。しかし、少数ではあるが重要だと判断した意見については、分析に活用することとした。

６　地域関係者へのアンケートでは、昨年度は配布数 95 で回答数 35 に対し、今年度は配布数が 30 と少なく、また回答数も 12 と少なかったため、データを比較した時に大きな差異を生じている項目もある。配布数及び回答数を考えると、単純なデータの比較で今年度の評価をすることは適切でないと考えるため、大きな項目ごとに学校関係者評価委員会としての若干の見解を示した。

【アンケートの回収率について】

アンケートの回収率については、生徒 94.3％（94.0％）、保護者 64.7％（59.0％）、地域 40.0％（37.0％）であった。

【関係者評価・教職員の自己評価等をもとにした本校の成果と課題】

Ⅰ　重点目標への取組の成果と課題

生徒は、「８　重点目標および数値目標（独自項目）」の⑴～⑶の項目で、保護者・地域は、「学校運営について」の⑴「学校の重点目標が明確である」の項目で評価した。

全般的には「評価が高い項目」であり、「平成２４年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方針」の「１．学校全体にかかわる広報活動の充実」の取り組みの成果である。生徒・保護者には重点目標が浸透してきており、今後も生徒への指導や保護者へより丁寧な説明に心掛けてほしい。また、地域にも重点目標は浸透してきている。

Ⅱ　地域とともに子どもを育てる教育の成果と課題

１　広報活動・情報提供

保護者は「８　広報活動・情報提供について」⑴～⑷の項目で、地域は「４　広報活動・情報提供について」の⑴～⑷の項目で評価した。

昨年度と同等、学校の広報活動・情報提供は、保護者・地域とも「評価が高い項目」であり、満足度が高い。特に、教職員の努力で、「学年だより」が毎週発行されており、学校での子どもたちの様子など様々な情報が多く発信されていることは､高く評価されている。

教職員の丁寧な説明や対応も「評価が高い項目」であるが、保護者にはより丁寧な説明や対応に心掛けてほしい。

また、ホームページの一層の充実を図り、保護者・地域に対する学校が情報発信のツールとして十分に活用されたい。

２　保護者・地域との連携

保護者は「９　地域との連携について」⑴～⑷の項目で、地域は「５　地域との連携について」⑴～⑷の項目で評価した。

保護者・地域との連携は４項目とも「評価が高い項目」であり、教職員の自己評価でも評価が高く、保護者・地域との連携は良好である。

しかし、保護者の「分からない」の割合が、学校運営委員会 28％、学校協議会 36％、人材や施設の活用 28％、地域行事等への参加・協力 24％と高い。また、教職員では、学校協議会等の「分からない」の割合も 26％であり、人材や施設の活用で、否定的評価が 29％と高い。

以上のことから、保護者・地域との連携については、保護者には「学校だより」やホームページで補う内容と考えられるので、情報提供や広報の方法を検討され、一層の努力が必要である。また、学校協議会等の教職員への周知は、学校経営方針とともに職員会議等で図ってほしい。

Ⅲ　未来を担う子どもを育てる教育の成果と課題

１　学習指導

生徒・保護者ともに「１　学習指導について」の⑴～⑷の項目で評価した。

学習指導の４項目は、生徒・保護者ともに「評価が高い項目」で、学校の取り組みは良好である。

⑴、⑵の項目では、教職員の授業改善の取り組みが進んでいることにより、生徒は「とても思う」の割合が昨年度を 10 ポイント程度上回っている。生徒は現在の学習指導に概ね満足している。このことは、教職員の自己評価での評価が高いことからも理解できる。

しかし、保護者は、授業に不満があったり、学力がついているかどうかを実感できていなかったりしているところが見られる。また、家庭学習や補習などに関して、学校の取り組み姿勢が理解されていない部分もある。

「教育活動の目標を達成するための基本方針」の「確かな学力をつける学校」にあるように、家庭と連携して基礎的・基本的な知識・技能の定着、基礎学力の向上を図る必要がある。そのためにも、保護者には学校・学年の取り組みをより丁寧に広報するとともに、保護者が実感できる実践の方策を検討されたい。また個々の保護者に対しては、より丁寧な説明に心掛けてほしい。特に２年生の保護者へは、学校・学年の取り組みについて、丁寧に時間をかけて説明し、教職員は説明したことを実践していくことが重要である。

また、⑶の通知表の評価については、昨年度と同様に、教職員が評価規準を明確にして評価していることが反映され、生徒・保護者とも納得できている。

しかし、⑷の授業時間については、保護者は学校公開週間や道徳地区公開講座など特定の日の様子で判断しているので、毎日接している生徒の評価が重要である。日常の授業の状況を管理職が把握するとともに、教職員は各授業の指導案等の改善を図り、50 分の授業時間内で終わるように努力されたい。

２　生活指導

生徒・保護者は「２　生活指導について」の⑴～⑶の項目で、地域は「１　生活指導について」の⑴・⑵の項目で評価した。

生徒の生活指導全般については、学年が進むとともに各学年とも改善されており、校内では、子どもたちは学校の規則を守って行動し、教職員の指導にも納得して学校生活を送っている。このことは、昨年度と同様に、教職員の自己評価で、社会の一員としての自覚や生活ルールなどの指導を実践している評価が高いことが反映している。

しかし、⑵、⑶の教職員と生徒との関係において、個別の学年で 20％近い否定的評価であった。このことは課題として捉え、生徒一人一人との信頼関係を築く努力をしてほしい。生徒の不満の蓄積は問題行動につながりやすいので、課題としてしっかり捉え、生活指導の改善・充実を図ってほしい。

保護者・地域ともに、今年度は問題となる行動が増えたと感じている。特に地域での子どもたちの状況で、昨年度より課題が多くなってきていると感じている。このことは、当然各家庭で指導すべき問題であるが、学校でも引き続き指導を続ける努力し、学校・家庭・地域が協力して改善を図ってほしい。

また、保護者は⑶「本校の教員には、子どものことを相談しやすい」で、昨年度は、統合により生徒数が増え、教職員との相談する機会は減ったのは課題であると指摘した。しかし、今年度の１年生の結果から考えると、規模の問題だけではない。教職員は多忙で、保護者が相談の機会が減ったと感じていることより、教職員が保護者と相談をする姿勢が課題であり、聴く姿勢が必要である。

３　学校行事

生徒・保護者は「３　学校行事について」の⑴～⑶の項目で、地域は「２　学校行事について」の⑴～⑶の項目で評価した。

生徒・保護者・地域の学校行事の３項目は、昨年度と同様「特に評価が高い項目」で、行事を楽しみにし、活躍するチャンス（場面）が多く、行事の内容が充実していることが分かる。これは、自己評価で、生徒の主体的な参加や行事の工夫・改善に取り組んでいる評価が高いことが反映している。

しかし、生徒数増が子どもたちにとっては良い結果になっている半面、生徒一人一人の行事への取り組ませ方については、学校として工夫をしてほしい。

４　キャリア教育・進路指導

生徒は「４　進路指導について」の⑴～⑶の項目で、保護者は「４　進路指導について」の⑴～⑷の項目で評価した。

「平成２４年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方針」の「２．進路指導における情報提供の改善」で、「『キャリア教育』の授業は、道徳、特別活動などで実施されていることを、保護者には、保護者会、進路説明会を通して、生徒には、授業の中で、『キャリア教育』の年間指導計画の説明を適宜行っていく」とあり、今年度は学校・学年で取り組んできた項目もある。

生徒の進路指導全般については、３項目とも教員の努力により大きく改善はされているが、⑵「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分ある」は全 32 項目中で最も課題がある項目である。また、⑶「進路に関する情報が十分提供されている」の進路情報は、学年が進むとともに改善されてきているが課題のある項目である。塾などの進学情報との混同が課題であり、子どもたちはまだ進学に関する情報提供としか捉えていない。

昨年度と同様で、子どもたちは、「進路指導＝キャリア教育」ではなく「進路指導＝進学指導」という認識である。面談等でも就きたい職業などの話題にも触れ、１年生から「進路指導＝キャリア教育」ということを十分に意識させた指導が必要である。

保護者についても、学校・学年で取り組んできたことで、「分からない」の割合が４項目とも減ってきているので、情報提供は改善されつつある。しかし、⑵「本校は、進路について十分な情報提供がされている」の具体的な進路情報や⑷「本校の教員は、親身になって進路の相談にのっている」では、昨年度より評価が下がっており、全 53 項目の中でも低い評価になっている。保護者の「進路指導＝進学指導」という認識を、「進路指導＝キャリア教育」という認識に改善すべく、教職員の更なる努力が必要である。特に、２年生の保護者への情報提供や進路相談については、教職員が課題を把握し、来年度＝３年生に向けての対策を検討すべきである。

また、教職員の自己評価では、年間計画に基づき計画的に職場体験などを実施し、情報提供や進路相談を丁寧に実施している評価が高いが、生徒・保護者との評価に乖離がある。この結果を基に、情報提供や生徒・保護者と相談の機会など学校・学年の取り組みについて再検討されたい。

５　体育・健康教育

保護者の「11　学校全般について」の⑷「本校では、健康の増進や体力の向上に取り組んでいる」で評価した。

昨年度と同様、教職員の自己評価の肯定的評価は87％と高いが、保護者の肯定的評価の56％（54）との乖離がある。このことについても、学校でどのような取り組みを実施しているかを広報する必要がある。

６　世田谷９年教育

生徒は「７　学校全般について」の⑶「学区域にある区立小学校とよく交流している」で、保護者は「８　広報活動・情報提供について」の⑸「『学び舎』の活動について、十分な情報が提供されている」で、地域は「４　広報活動・情報提供について」の⑸「『学び舎』の活動について、十分な情報が提供されている」で評価した。

「世田谷９年教育」の「学び舎」で策定した「『学び舎』教育計画」に基づき学校運営を行って２年目で、「『学び舎』の活動」は教職員の交流が中心であるため、生徒・保護者・地域に浸透していない。

今後は、教職員の交流を基に意識を高め、連携する小学校と協力して、子どもたちの交流活動が多く実現することに期待したい。また、保護者・地域に対しては、昨年度も指摘したが、小学校と連携した「学び舎だより」などにより広報の充実が図られることを期待したい。

７　部活動

生徒・保護者ともに「５　部活動について」の⑴～⑶の項目で評価した。

部活動については、昨年度と同様、生徒数と教職員の増加により、生徒の希望が叶い、評価が高い項目になっている。また、校庭・体育館等の施設の面や中学生として望ましい部活動の回数と時間についても、子どもたちの理解が深まってきている。

保護者も、部活動が適切な指導のもとに充実しており、子どもたちが活躍していると感じている。

このことは、教職員の自己評価での部活動の活発さの肯定的評価が高いことでも分かる。しかし、組織的実施の評価が若干低い。教職員の一部は、「全教職員で組織的に」実施できていないと感じている面があるのは、学校経営上の課題である。

Ⅳ　信頼と誇りのもてる学校づくりの成果と課題

１　学校経営・学校運営

保護者は「６　学校運営について」の⑵「校長はリーダーシップを発揮している」と⑶「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」で、地域は、「３　学校運

営について」の⑵「校長はリーダーシップを発揮している」で評価した。
　学校経営・学校運営に関しては、保護者・地域とも「評価が高い項目」で、昨年度と比べ肯定的評価が若干高くなっている。校長を中心に教職員が協力して教育活動に取り組んでいることは、教職員の自己評価からも窺える。また、学校の取り組みや教職員の姿勢についての地域の評価も高い。広報や情報提供など教育活動が見える工夫の成果である。

２　教職員
　生徒は「６　先生について」の⑴～⑶の項目で、保護者は「７　教員について」の⑴と⑵の項目で、地域は、「３　学校運営について」の⑶と⑷の項目で評価した。
　今年度も、教職員が様々な場面で熱心に指導しており、生徒・保護者ともに教員の指導には満足している。しかし、教員の指導の公平性や聴く姿勢については、昨年度よりは若干改善されたが、生徒の評価は分かれている。指導場面や対応時の状況によって、生徒一人一人の受け取り方や感じは大きく左右されることがあるので、数値のみでの判断は難しい。教職員の指導の意図が子どもたちに理解される工夫と様々な場面できめ細かく丁寧な対応が望まれる。
　教職員の対応については、保護者は８⑵「本校は、保護者に対し、丁寧に説明や対応をしている」の評価も併せて考察した。この項目の肯定的評価 80%（76）も併せ、地域の評価と総合的に判断すると、保護者・地域に丁寧な説明や対応で高い評価を得ていることは教職員の日常での努力の賜物である。今後も丁寧に説明や対応を心掛けてほしい。
　また、「マナー」に関しては、様々な場面で評価されていることを意識して、教員として今後も行動する必要がある。

３　保健・衛生管理（学校環境・学校給食）
　保護者の「10　学校の安全性について」⑸「本校は、校内の環境や給食への衛生面の配慮がなされている」で評価した。
　本校の学校環境・学校給食については、問題がない。しかし、保護者の認知が低いので、ＰＴＡと協力して校内見学などを企画するなどの対策を必要とする。

４　安全管理
　保護者は「10　学校の安全性について」の⑴～⑶の項目で、地域は「６　学校の安全性について」の⑴・⑵の項目で評価した。
　学校の安全性については、安全指導・避難訓練や災害時の保護者・地域との協力など「評価が高い項目」であり、昨年度と同様に学校の取り組みが理解されている。

Ⅴ　教育環境の整備の成果と課題
　保護者は「10　学校の安全性について」⑷「本校の施設の安全性は、確保されている」、地域は「６　学校の安全性について」⑶「本校では、学校施設の安全性は確保されている」で評価した。
　施設・設備の安全性の確保については、保護者・地域への広報によって、保護者の評価は改善され、また「分からない」の割合が低くなった。今年度は、地域については調査し

ていないのは課題である。
施設・設備の状況について、保護者・地域に「学校だより」などにより、広報をする必要がある。

Ⅵ　学校生活全般の成果と課題

生徒は「７　学校全般について」の⑴と⑵で、保護者は「11　学校全般について」の⑴～⑶と⑸で評価した。
生徒は、統合２年目であるが、教職員の様々な努力により、生徒は現在の中学校生活全般について満足している。今後も子どもたちにとって、好きな学校、楽しい学校であり続けるように、教職員の様々な努力を継続していただきたい。
保護者も、子どもたちが楽しい学校生活を送り、学校全体に活気があると感じている。また、教育活動全般に対する満足度は概ね良好である。しかし、学習指導、生活指導、進路指導などの項目で、保護者の満足していない教育活動を抽出して、対策を検討することが今後の課題である。

Ⅶ　数値目標の取組の成果と課題

１　人間的な触れ合いを深める環境をつくるとともに、コミュニケーション能力を高め、豊かな心の育成を図る。
「運動会や学芸発表会では、本気に取り組み、達成感を得ることができた」と実感できる生徒を 80%以上にする。

生徒の「８　重点目標および数値目標（独自項目）」⑹「運動会や学芸発表会では、本気で取り組み、達成感を得ることができた」で評価した。
肯定的評価が 88%（89）で、「とても思う」も 53%（56）であり、前年度より少し下がったが、「特に評価が高い項目」であり、目標は達成されている。
保護者の「12　重点目標および数値目標（独自項目）」⑹「子どもたちは、運動会や学芸発表会で意欲的に取り組んでいた」でも、肯定的評価が 96%（95）で、「とても思う」が 53%（42）であり、「特に評価が高い項目」となっており、保護者は子どもの意欲的な活動に十分満足していることからも、成果を上げていることが分かる。

２　日々の授業を充実させ、生徒一人一人に確かな学力を身につけさせる。
「授業の内容が理解できる」と実感できる生徒を 80%以上にする。
生徒は「１　学習指導について」⑴「授業の内容はよく理解できる」で評価した。
「Ⅲ　未来を担う子どもを育てる教育の成果と課題」の「１　学習指導」でも記述したが、肯定的評価が 80%（75）で、「特に評価が高い項目」であり、今年度は目標を達成している。また、昨年度は１年生 27%、２年生 25%と否定的評価が高かったが、学年が上がった今年度は、２年生 21%、３年生 18%と改善された。教員が改善に取り組んだ成果である。
保護者の「１　学習指導について」⑴「本校は、子どもにとってわかりやすい授業をしている」でも、個別の学年では課題があるが、肯定的評価が 63%（57）に対し、否定的評

価 19%（17)、「分からない」18%（25）と改善されてきている。このことからも、成果は上がってきている。

３　基本的な生活習慣を確立させ、自己実現を図るための強い心を育てる中で、一人一人が大切にされ、お互いが認め合い協力しあえる集団を育成する。
「学校のきまりを守って行動している」と自覚できる生徒を 90%以上にする。

生徒は「２　生活指導について」⑴「わたしは学校のきまりを守って行動している」で評価した。

「Ⅲ　未来を担う子どもを育てる教育の成果と課題」の「２　生活指導」でも記述したが、肯定的評価は 86%（86)、「とても思う」が 35%と「特に評価が高い項目」であり、目標はほぼ達成されている。校内では、生徒は学校の規則を守って行動し、教職員の指導にも納得して学校生活を送っている。

しかし、保護者の「２　生活指導について」の⑴「本校では、社会のルールを守ることについて子どもたちに指導が行われている」は、肯定的評価が 78%（79）と割合が高く、概ね良好であるが、⑵「本校では、子どもたちの問題となる行動が少ない」は、肯定的評価 57%（68)、否定的評価 26%（14）で、昨年度から肯定的評価が大幅に下がり、否定的評価が倍増している。学校でルールを守る指導が行われているが、子どもたちの校外での行動などが保護者にとって不安材料になっている。また、地域も、今年度は子どもたちがあまり社会のルールについての意識に若干の課題を感じ、問題となる行動が増えたと感じている。

Ⅷ　独自項目の評価

生徒の「８　重点目標および数値目標（独自項目）について」では、⑴～⑶は「Ⅰ　重点目標への取組の成果と課題」で、⑹は「Ⅶ　数値目標の取組の成果と課題」で評価したため、それ以外の項目で評価した。今年度は、⑼と⑽以外の４項目は改善された。

保護者は「12　重点目標および数値目標（独自項目）について」で評価した。この 10 項目については、全般的に改善が見られた。

地域は「７　重点目標および数値目標（独自項目）について」で評価した。

生徒・保護者・地域の独自項目は、各項目とも概ね高い評価である。

「朝読書」については、生徒は熱心に取り組んでおり、保護者・地域も継続の要望が強い。また、「挨拶」については、学校の取り組んでいる挨拶運動の成果で、生徒は挨拶に心掛けていて問題はない。しかし、保護者・地域は「挨拶をよくしている」と判断していないところもあり、校内だけでなく日常生活での指導が課題と考える。

「ボランティア・地域活動への参加」については、生徒の参加状況はあまり良くないが、保護者・地域は子どもたちがよく活動していると感じている。生徒の参加状況の改善には、生徒会などの広報や生徒への教職員の働きかけが必要である。

「少人数授業」は、保護者・地域の要望が高いが、生徒は肯定的評価 68%（67）と「評価が高い項目」であるが、否定的評価も 26%（24）（１年生 26%、２年生 35%）と高い。少人数授業の指導内容・指導方法の研究が必要である。

【学校関係者評価委員会の総合所見】

統合２年目であるが、全体として生徒・保護者ともに「評価が高い項目」が多く、今年度も成果が上がった１年であった。これは、昨年度の調査結果を踏まえ、「平成２４年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方針」を作成し、校長のリーダーシップのもと、教職員が様々な努力して改善を図った結果である。

特に、生徒は、学校生活の基盤となる学習指導、生活指導、学校行事、部活動のほとんどの項目で、全体としては前年度の調査を上回る結果であった。このことは、教職員の教育活動での様々な取り組みと努力による成果である。また、生徒は、教職員の指導の基、様々な教育活動に協力し合いながら取り組むとともに、切磋琢磨した結果であると考えられる。

保護者は、全般的には生徒と同様、多くの項目で前年度の調査を上回る結果であった。また、昨年度は「分からない」の割合が高い項目が多くあったが、今年度は大幅に改善されている。これは、保護者に必要な情報を提供するなど、改善方針を実践した結果、成果が上がったと考える。

しかし、前年度の調査結果を下回る項目もいくつかあり、個別の学年で課題のある項目もあった。まだ的確な情報の提供や丁寧な説明や対応に課題があったことは否めない。保護者には必要な情報を的確に提供するなど、より一層丁寧な広報が必要である。

「課題がある項目」は、今年度も生徒・保護者ともに進路指導である。学校は、「『キャリア教育』の授業は、道徳、特別活動などで実施されていることを、保護者には、保護者会、進路説明会を通して、生徒には、授業の中で、『キャリア教育』の年間指導計画の説明を適宜行っていく」ことで、進路指導＝キャリア教育のことが理解されるよう努力してきた。このことで、アンケート集計結果では改善されてきてはいるが、昨年度と同様に他の項目に比べて低い評価である。なお一層の改善策の実施が必要である。

また、生徒・保護者ともに、２年生で「課題がある項目」が見られた。昨年度１年生の時にも指摘したが、２年生に進級しても特に保護者の様々な不安や不満が払拭されていない様子が窺える。学年が進むにつれて改善されるように、生徒指導の充実と保護者への丁寧な働きかけについて、学校として検討されたい。

教職員の自己評価については、昨年度も指摘したが生徒の変容をしっかり捉えて自己点検をする必要性を感じる。

地域については、全般的に「評価が高い項目」が多かった。

今年度のアンケート集計結果では、統合１年目の昨年度より、全般的に大きく改善されてきている。これは、校長のリーダーシップのもと、よりよい学校を作ろうとする教職員が、さまざまな教育活動に取り組み、真摯に努力した結果であり、その努力が生徒・保護者・地域の評価を得ているものであると考えます。

今後も生徒の成長により一層のご尽力を期待します。

今年度の学校関係者評価の分析において、前述したとおり、地域関係者へのアンケートが配布数 30 で回答数 12 と少なかった（昨年度は配布数 95、回答数 35）ため、単純なデー

タの比較で評価をすることは適切でないと考えました。そのため、生徒と保護者のアンケート集計結果の分析を主とし、地域関係者のアンケート集計結果については、大きな項目ごとに評価委員会としての若干の見解を示し、生徒と保護者のアンケート集計結果の分析の参考としたことを付記します。

なお、今年度の学校関係者評価の地域関係者へのアンケートの配布数が大幅に減ったことについて、昨年度は、統合１年目であり旧学区域の地域関係者も含めて配布したが、今年度は配布先を見直し、学区域の地域関係者だけに配布したためであると学校から説明がありました。評価委員会としては、地域関係者のご意見が適切に評価できるように、配布先の見直しと回答数の向上に、学校が努力すべきであると要望いたしました。